

## 飼料添加物等を利用した乳牛における暑熱期の生産性の改善

### 【研究概要】

青梅庁舎のホルスタイン種飼養牛を用い、夏の暑熱期を6月中旬～7月上旬、7月中旬～8月上旬、8月下旬～9月中旬の3期に分け、それぞれ3週間に渡ってバイパス油脂単独の給与、酵母と組み合わせた給与について、暑熱ストレス低減効果を検証した。乳量はいずれの区および期間においても有意差を認めなかったが、試験期間の第2期では添加区において乳脂肪率が有意に増加した。暑熱ストレスにより減少するとされる血液生化学値（総コレステロール、グルコース）は、第2期と第3期において添加区でのストレス軽減効果を示した。また、酸化ストレス指標のひとつである TBARS で飼料添加物等給与の効果もある程度認められたが、いずれの検証においてもバイパス油脂区とバイパス油脂+酵母区の差は明確でなかった。